

平成 25 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

- [分類] 普及技術  
[成果名] 直播水稲用中期除草剤フォローアップ 1 キロ粒剤／ワイドアタック D 1 キロ粒剤は水田雑草防除に有効である  
[要約] 直播水稲用中期除草剤フォローアップ 1 キロ粒剤／ワイドアタック D 1 キロ粒剤を初期除草剤との体系処理により稲 5 葉期～ノビエ 5 葉期までに 1 kg/10a を湛水処理することで効果的な水田雑草防除が可能である。  
[担当] 農業試験場作物部、農業技術課  
[部会] 作物部会

1 背景・ねらい

これまで直播水稲の雑草防除における除草剤の体系処理では、高葉齢のノビエに対応した中期剤が無かった。そこで、省力的で除草効果の高い直播水稲用中期除草剤の実用性を検討し、新しく利用できる剤として普及技術とする。

2 成果の内容・特徴

- (1) 直播水稲用中期除草剤フォローアップ 1 キロ粒剤／ワイドアタック D 1 キロ粒剤を初期剤との体系処理で、稲 5 葉期～ノビエ 5 葉期に 1kg/10a 湛水処理することにより実用的な除草効果が得られる。

農薬登録内容

フォローアップ 1 キロ粒剤／ワイドアタック D 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ペノキススラム：0.60%、ダイムロン：10.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：ペノキススラム A類、ダイムロン A類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成 25 年 8 月 25 日現在 JPP-NET 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の使用 回数
直播水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	湛水散布	砂壤土～ 埴土	稲 5 葉期～ノビエ 5 葉期ただし、収穫 60 日前まで	1 kg	1 回

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は中期剤であるため、必ず初期剤等との体系で使用する。  
(2) 本剤はオモダカ、クログワイに対しては適用外であるため、効果のある剤との体系処理を行う。  
(3) フォローアップ 1 キロ粒剤とワイドアタック D 1 キロ粒剤は商品名が異なる同一成分の除草剤である。1 年間にいずれかの剤を 1 回だけ使用できる。  
(4) 本剤の効果発現までには 1 週間程度の時間を要する。  
(5) 使用上の留意事項は、「農作物病虫害・雑草防除基準（長野県）」の除草剤の使用方法（湛水直播除草剤）を参照する。

4 対象範囲

県下全域

## 5 具体的データ

(1) 平成 25 年に農業試験場で実施した試験では、稲 5 葉期およびノビエ 5 葉期処理の除草効果は高かった(表 1)。薬害は見られなかった(観察)。

表 1 ワイドアタック D 1 キロ粒剤の雑草防除効果<sup>a)</sup> (平成 25 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 処理量(/10a)	ノビエ	カヤツ リグサ	コナギ	アゼナ	その他 広葉	ホタ ルイ	合計
マクダス 1 キロ粒剤+	+13 日 <sup>b)</sup> 1 kg							
ワイドアタック D 1 キロ粒剤	+26 日(稲 5 葉期) 1 kg	0	0	0	0	0	0	0
マクダス 1 キロ粒剤+	+13 日 <sup>b)</sup> 1 kg							
ワイドアタック D 1 キロ粒剤	+27 日(ノビエ 5 葉期) 1 kg	0	0	0	0	0	0	0
(比較)キックバイ 1 キロ粒剤	+ 8 日 <sup>c)</sup> 1 kg	0	0	1	1	61	13	10
(比較)トップガン L フロアブル	+13 日 <sup>b)</sup> 500ml							
+ザーバックス D X 1 キロ粒剤	+26 日(稲 5 葉期) 1 kg	0	0	0	0	0	0	0
無処理	—	1.4	13.3	65.2	25.6	0.6	261.3	367.4

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理比(%)。無処理区は乾物重(g/m<sup>2</sup>)。

b) ノビエ 2.5 葉にあたる。

c) ノビエ出芽始期にあたる。

b)および c) 処理時期の+は播種後日数を示す。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高 340m, 中粗粒グライ土)。品種は「コシヒカリ」。

1 倍重カルバーコーティング種子を乾粒 3 kg/10a、機械播種。代かきは 6 月 14 日。

播種は 6 月 18 日。1 区 7.2 m<sup>2</sup>、2 区制。

調査方法：播種後 56 日後に調査した。

(2) 平成 24 年に松本市の現地ほ場で実施した試験では、比較剤と同等に高い除草効果が得られた(表 2)。薬害は見られなかった(観察)。

表 2 フォローアップ 1 キロ粒剤の雑草防除効果<sup>a)</sup> (平成 24 年、松本農業改良普及センター)

除草剤名	処理時期 <sup>c)</sup> 処理量(/10a)	ノビエ	アゼナ	その他	ホタルイ	合計
初期剤(2 剤) <sup>b)</sup> +	+9 日 1 kg					
フォローアップ 1 キロ粒剤	+18 日 500ml	0	0	0	0	0
初期剤(2 剤) <sup>b)</sup> +	+9 日 1 kg					
ザーバックス D X 1 キロ粒剤	+18 日 500ml	0	0	0	0	0
(比較)初期剤(2 剤) <sup>b)</sup> のみ	+9 日 1 kg	0.8	1.6	4.4	7.3	14.1
	+18 日 500ml					

a) 表 1 と同様。

b) 初期剤は+9 日にキックバイ 1 キロ粒剤および+18 日にトップガン L フロアブルをそれぞれ散布した。

c) 処理時期の+は播種後日数を示す。各試験区は同一ほ場ではなく異なる隣接圃場での試験データ。

試験方法：試験場所は松本市笹賀(標高 645m, 灰色低地土・礫土)。品種「コシヒカリ」。

種子は 2 倍重カルバーコーティング種子を乾粒 3 kg/10a、機械播種。

代かきは 5 月 22 日、播種は 5 月 23 日。1 区 35a、1 区制。

調査方法：播種後 51 日後に調査した。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 25 年度(2013)、民間受託

県植物防疫協会委託試験(普及展示ほ)、平成 24 年度(2012 年度)、その他